

も再確認や検討の機会となった。

③ 日常の職員室

指導や実務の会話の際に、気軽に率先して参照し活用を図った。

(2) 学校努力目標の実践計画に対する具体的な取り組み

① 共通理解を図る (7月)

教頭より具体的な説明を聞いた。その結果、理解が深まり問題点の指摘や学期末反省の必要性が話し合われた。

② 改善の方針の作成 (8月)

努力目標の実践計画の改善の方針	
1. 実践計画の具体化、明確化をし、教育活動に密着させる。	
①	内容・方法・到達目標を、具体的に明記する。
②	実施内容ごとに担当者とその主従を明確化する。
③	実施時期を明確化し、偏らないよう調整する。
2. 評価・反省・改善策の欄を設定し、P-D-Sサイクルが積み重ねられるようにする。	
0	評価欄はABCの3段階別記入とし客観化を図る。

③ 改善案作成のための組織の工夫

これまで修正の際は、教頭が各係主任と個々に話し合っただけで進めた。今回は関係する係主任が集まって検討し、連携を図って指導できるように、関係係主任会を設定して改善案を作成した。

④ 改善案の作成

(改善前)

努力目標	実践計画			
	教務部	指導部	保健部	幼・小学部
4 基本的な生活習慣の確立を図る	家庭との協力連携の推進	安全教育の徹底	保健、安全、給食指導の徹底 清掃、整理、整頓指導の徹底	安全教育の徹底 給食指導についての話し合い

(改善後)

努力目標	内容、方法	到達目標 ※ 幼児・児童・親 ○ 教師	-実施時期- 重点実施時期 (学期)			担当者	評価 A B C
			1	2	3		
4 基本的な生活習慣の確立を図る	1. 安全教育の徹底をはかる。 ① 安全教育の計画の作成 ② 安全教育の実施	○ 安全教育の内容と位置付けの検討と指導実践ができたか				保健・生徒指導	
		* 安全への意識が高まったか * 事故を予防出来たか				各学部・教務	
	2. 通学指導の推進をはかる ① 通学の実態と問題の把握 ② 全職員との共通理解と連携指導 ③ 保護者との連携指導	* 問題を克服し、安全に通学出来たか				生徒指導・全員	
		* 通学自立の自覚が高まったか				生徒指導・全員	
		* 全職員で協力指導が出来たか				生徒指導・PTA	
	3. 保健、給食指導の推進をする ① 清潔の習慣の確立 ② 共通理解に基づく給食指導 ③ 保護者との連携指導	* 家庭の協力が得られたか				担任	
		* 手洗い、歯磨きを励行したか				保健部・全員	
		* 楽しく食事が出来たか				保健部・全員	
		* 指導法の共通理解が出来たか				保健部・PTA	
		* 家庭の理解が高まったか					

⑤ 学校努力目標の据え直し (10月)  
改善案を検討する過程で努力目標そのものについて本音で話し合った。

- 努力目標は内容が毎年同じで数も多いので、実践も形式的で総花的になり易い。実態に応じ内容を検討し重点目標を選定して成果をあげたい。
- 学校努力目標、努力目標、各係の努力事項等いろいろあるが、関係が分かりにくい。関連を構造化し、組織的に教育目標の具現化を図りたい。

⑥ 評価・反省の実施 (12月)

今年は第2学期末の反省の際に、努力目標の実践計画についても、組織的に反省をすることができた。

- 評価・反省の結果では、努力目標の実践計画について「努力した」または、「良く努力した」が多く、努力目標の具現化へせまることはできたと考える。担任や係が工夫した実践も記述されているので、それを学校全体で共有することにより、より具現化にせまれると考える。
- 係や担任としての実践を教育目標等の全校的な視野で見直すことにより、担任間や係間の連携と協力の必要性と重要性の認識が高まった。

(3) 学校努力目標の指導実践例

— 4「基本的な生活習慣の確立」特に安全教育と通学指導について —

① 下校途中での問題 (5月)

駅前徘徊や経路変更による危険等の生徒指導上の問題がおき、学級の枠を